

2月19日

「基地集中は当然」今なお怒り

無職

(沖縄県 63)

沖縄県庁に在職中、国の研究機関で研修を受ける機会に恵まれた。懇親会で幹部研究員が「沖縄行事件をもつかけとした日米地位協定改定要求はいまだ実現せず、普天間飛行場闇鑑は辺野古新基地には米軍基地を置かないと経済が成り立たない。米軍基地が集中するのは当然だ」と述べた。その場の状況から反論はしなかつたが、判断を避けただけである。

27年たった今も怒り心頭である。1995年の米兵による少女暴行事件をもつかけとした日米地位協定改定要求はいまだ実現せず、普天間飛行場闇鑑は辺野古新基地建設にすの替えられた。何度も県議会に選挙や県民投票で意思表示しても政権は無視し続けた。司法は

悪質なのは防衛省予算の米軍再編交付金。基地反対の名護市長が当選すると交付金は止めるが、建設は強行。黙認する市長が当選するかと交付。防衛省予算なのに子育て支援策にも使用可能。国民の税金を使った賃収行為ではないか。いまだに沖縄は本土防衛の前線基地の役割を押しつけられている。生きている限り、沖縄を一度と戦場にしないために声を上げ続ける覚悟である。